

令和7年度 第2回新しい学校の在り方検討委員会 会議録

- 1 **と き** 令和7年12月9日（火）15:00～16:20
- 2 **と ころ** 大垣市役所8階 大会議室
- 3 **出席委員** 渡邊友三郎小中校長会長、河瀬実浩小校長会長、松野光宏中校長会長
増田英雄校長、野田正興市PTA連合会長
- 4 **事務局** 細江敦教育長、小倉学校教育課長、
富田教育総合研究所長、林学校教育課主幹、
押谷教育総合研究所主幹、高木教育総合研究所主任指導主事
鈴木学校教育課主任指導主事、中川学校教育課主任指導主事
- 5 **傍聴者** 1名
- 6 **次 第**
 - 1 開会
 - 2 あいさつ（細江教育長）
 - 3 議事
 - (1) 業務改善部会からの報告
 - (2) 子ども部会からの報告
 - 4 閉会

開会 15:00

発言者	発言内容【概要】
事務局	1 開会のことば（略）※議事以外の司会進行
細江教育長	2 あいさつ（略）
事務局	3 議事 (1) 業務改善部会からの報告 (部会からの説明の概要) <ul style="list-style-type: none">・本部会では、教員の業務改善を目的とした生成AI活用の実証研究を実施しました。・実証校である赤坂中学校と江東小学校で、6月から10月にかけて生成AI「スタディポケット」を活用した。・文書作成、通信作成、教材研究などの業務で活用し、職員アンケートでは約6割が業務効率化を実感した。・生成AIは文章校正や情報検索に特に有効で、創出された時間を授業準備や教材研究に充てることができた。・今後は、安全性が担保された生成AIを全教職員に導入し、セキュリティポリシーの改訂とガイドラインを作成するとよい。 (2) 子ども部会からの報告 (部会からの説明の概要) <ul style="list-style-type: none">・今後の生成AI導入に向け、各教科での活用方法を検証し、児童生徒への導入について検討した。・生成AIは目的ではなく、資質・能力育成のための手段と位置づけ、安全・適正な利用を徹底することが必要である。・国語や理科など各教科で具体的な授業活用事例を作成した。・児童生徒向けに、AIと向き合う「探検家」「探偵」「ガイド」の3つの心構えを示したガイドラインの素案を作成した。・活用する生成AIの選定、教員向け研修プログラム、保護者への説明と同意書準備を進め、導入を検討してほしい。
委員長	・それぞれの立場から、ご意見をお願いします。
A委員 (増田校長)	・今回実証で使用した生成AIは、PDFデータしか読み込むことができなかった。校務で使用しているデータがそのまま読み込める生成AIだとよい。校務で使用している情報環境と親和性が高いものだと、業務改善につながる。 ・最終的には、授業改善に使えるようになることが一番だと考えている。

発言者	発言内容【概要】
	AIドリルは即時的に評価を個に返すことができる。音声からも評価していけるとよい。その評価を基に、子どもの実態を把握し、授業改善に役立てる。こういった使い方ができれば、本当の意味で授業改善に生成AIが活用していけることになる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は実証校なので、全員が使うことができる。 ・職員会の資料を要約する、比較する、改善するという点で活用している。アンケートの集計や分析にも使っている。こうした使い方は便利だと実感している。
B委員 (河瀬校長)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用例や、不適切な例に納得した。みんなが分かりやすい提案があると活用することができるが、一方で、相手に伝わる資料を作る力が弱まるのではないか。 ・子どもたちが使う時は、表現する際につかえるとよい。しかし、例えば社会の授業の資料を活用する場面でAIを使うことは、力を伸ばすことができなくなる。安易に使わせることで、本来伸ばせるはずの力が伸びないことがマイナスではないかと危惧している。 ・使い方によって有効な場合もあるので、活用の仕方を研究していく必要があると感じた。
C委員 (松野校長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の話聞いて、使い方によってはすごいと感じた。 ・業務改善においても、学習においても、ベースを作る、よりよいものに改善するという点で活用しがいがあると感じた。 ・逆に、リスクの管理が必要である。パソコンやSNSが出てきた当初もあったが、いろんなリスクが出てくることを予想した上で、ガイドラインを作り対応する必要がある。 ・これまでの学習方法で身につけていた力が弱くなることが予想される力をしっかりと洗い出し、使う場面を十分に考える必要があると感じた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がAIの情報を鵜呑みにしてはいけないし、情報をどう見極めるかという力を付ける必要がある。また、本当に付けてほしい力が抜けてしまうのではという不安がある。
D委員 (野田様)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内では、スマートフォンにつながっている音声アシストがあるが、頼りすぎていないか心配がある。掃除などたくさんある。制限しても… ・結局は、親とのコミュニケーションが大切である。PTAとしては、

発言者	発言内容【概要】
	<p>子どもとコミュニケーションを積極的にとるという活動をしている。コミュニケーションをしっかりとっていけば、分からない時に親に相談できる。チェックリストのようなものを作って、広げていけるのではないかと考えている。</p>
E事務局 (富田所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生は、今AIに恋愛相談していると聞く。自分のいろいろな悩みを相談して、いいことを言ってくれるから、頼っている子がいる。 ・タブレット端末を導入したときもそうだが、子ども達は大人をしのぐ速さで使いこなすので、子ども達がAIをどう思っているか、実態をつかむことが大事であると感じた。 ・業務で使うことと、授業で使うことは、まったく別のものだから、住み分けることが大切。業務も授業もどちらでも気を付けたいことは、自分で考えなくなり、付けたい力が身に付かないことが危惧される。 ・導入にあたっては、大事にしたいことを共通理解して使うことが大切だと感じた。
F事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビで、読書感想文をAIに書かせたり、宿題をさせたりということが報道されたことがあった。教員も通信を作らせたりしている人もいると聞いた。自分でできる力があれば、自分でやろうとなる。しかし、その場しのぎで使うこともある。使う場面を間違えないように使っていけばよい。 ・逆に使う場面を間違えると、力が落ちてしまう。どういう場面で使うことが効果的なのかを教員がしっかり知り、学習した上で使うことが必要である。
G事務局 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れで、生成AIは生活の中に位置付いてきている。使っている所をみて、いいなと思うこともある。 ・皆さんの話を聞いていると、教育に使うリスクをきちんと管理していく必要があると感じた。 ・AIに任せられるものは任せればよいが、生身の先生が子どもの前に立つ価値を考える必要がある。AIではなく、人でないとできないことを整理しなければならない。 ・AIは過去の資料を組み合わせて回答を作成している。本当は子どもたちに、新しいものを創造していく力を育みたい。
渡邊委員長	<p>(これまでの意見をまとめると)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの導入については、前向きに検討する必要がある。

発言者	発言内容【概要】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを作成し、メリット・デメリットを明らかにし、それを理解した上で、教職員も子どもも使うことができるようにする。 ・教育委員会で、本会で出た意見をもとに導入について検討・準備を行っていただきたい。
学校教育課長	4 挨拶（略）
事務局	5 閉会のことば（略）

閉会 16:20

前記のとおり、相違ないことを証するため署名捺印する。

令和7年12月20日

委員長 渡邊友三郎 ㊟

本会議録の作成に係る職務を行った者

学校教育課 小倉 正裕 ㊟